

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	防大理工学館C棟	階数	地上5F
建設地	神奈川県横浜須賀町水1-10-20	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、第一種低層住宅地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	6,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2031年3月 予定	評価の実施日	2025年10月20日
敷地面積	8,537 m ²	作成者	株式会社山田守建築事務所
建築面積	3,519 m ²	確認日	2025年10月20日
延床面積	15,476 m ²	確認者	株式会社山田守建築事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 防衛大学校敷地内において老朽化した既存理工学館(1号館から5号館)の建て替え計画の一貫として、3棟目となるC棟を計画する。主に1,2階には教場、3~5階に教員室、演習室を配置し、人員やカリキュラムの変化にも将来対応可能な、フレキシビリティのある建物とする。また、災害発生時の避難拠点としての機能を果たす建物とする。		その他
Q1 室内環境 教場や演習室は乾式の遮音壁によって区画し、隣接する教場や各部屋での活動に配慮するよう計画した。換気設備は全熱交換器を採用し、室内の気温や換気等の適切な室内環境を保つ計画とした。	Q2 サービス性能 カリキュラムに適切に対応した教場棟の効率的運用・稼働率向上に寄与する建築計画とする。2階のホールや3階および5階にファカルティエリアを計画し、学生間のディスカッションを活性化させる。また、他学科、他学群、他校の教育研究者などとの交流の場として活用する。	Q3 室外環境(敷地内) 横須賀市の景観条例に配慮し、すでに竣工済みのA棟、B棟との連続したファサードを考慮し、バランスの取れた景観を計画する。建物高さは水平地盤面から20m未満とし、階高を抑制しつつA・B棟の高さ(天端)程度とする。
LR1 エネルギー BEI=0.5を目指し、高効率空調や高性能断熱材、ペアガラス(Low-E)などを積極採用し、ランニングコストの低減を図る。	LR2 資源・マテリアル 階高の抑制等建築構造のコスト削減、乾式壁を採用し、コスト削減を図りつつ、柔軟性の確保とともに建設副産物(型枠)の発生抑制を図った。	LR3 敷地外環境 横須賀市給排水道局と協議し、建物内に雨水貯留槽を設け、建物上部に降った雨を貯留し排水量を調整することで、適切な排水量を維持する計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される